

国際化学肥料ニュース（2014年11月）

肥料業界の2014年11月動態

- * ベトナムからの報道によれば、中国から輸入された尿素、NPK 化成肥料がベトナム国内の肥料メーカーを圧迫している。加里肥料を除き、ベトナムの化学肥料生産能力が国内需要を満たすことができ、NPK 化成肥料が輸出余力まで成長した。しかし、中国は東南アジア地域との自由貿易協定（FTA）を根拠にベトナムへの化学肥料輸出関税を引き下げたことで、大量の廉価尿素と化成肥料をベトナムに輸出した。2013年、ベトナムは約 80 万トン尿素と 42.1 万トン化成肥料を輸入した。

国内化学肥料産業を保護するため、ベトナム政府は尿素に対して輸入関税をかける措置をとるほか、化学肥料の輸入業者に輸入許可証を発行することを通知した。目的は化学肥料の輸入数量をコントロールしようとすることである。

- * サウジアラビア産 DAP が値下げ傾向。現在、サウジアラビアからインドに輸出された DAP の CFR 価格は 488 ドル/トンであるが、2015 年の DAP 輸入商談の結果、2015 年第 1 四半期の DAP 価格を CFR480 ドル/トンに決定した模様。

また、サウジアラビアからベトナムとタイへの DAP 輸出価格も CFR490~495 ドル/トンに値下げした。

- * 10月29日、インド STC 社が尿素の入札結果を公表した。今回は計 17 社 177 万トンの応札がある。最低応札価格が Liven 社の CFR308.65 ドル/トン、次いで Aries 社の CFR309.90 ドル/トン。12月10日までに納品する予定である。

- * 11月11日、ドイツの BASF 社は新開発の Limus 窒素肥料管理製品を 2015 年から正式発売すると発表した。Limus 窒素肥料管理製品はウレアーゼ（尿素分解酵素）を抑制する成分と硝化作用を抑制する成分の二つの抑制剤を含んでいて、尿素や UAN（尿素硝安液肥）に添加することにより微生物の脱窒作用とアンモニア揮発損失を防ぎ、その有効期間が 21 日以上になるという。

2013 年の現場試験結果によれば、Limus を添加した窒素肥料は対照区に比べて、アンモニア損失率を最大 90% 減少し、作物収量が 6% も増加した。また、実験データでは、未処理の尿素が施用 11 日後、アンモニア揮発と脱窒作用による窒素損失が 35% に達するが、Limus を添加した尿素では窒素損失が 5% 未満に抑えられるという結果が出た。

BASF の発表によれば、Limus は作物の窒素吸収利用能力を高め、持続的に高収量を得ることができる。農家は Limus を利用して、窒素肥料の施肥管理が楽になり、肥料利用効率が上がり、生産コストを削減することができるという。

- * タイの税関統計データによれば、1～9月にタイの塩化加里輸入量が59.2万トン、昨年同期より17.5%増加した。輸入先の内訳はカナダ24.5万トン、ベラルーシ15.6万トン、ドイツ7.4万トンであった。
- * 11月20日、カナダ Canpotex がインドの Coromandel International Ltd (CIL) 、Tata Chemicals Limited (TCL) 2社との間に加里肥料の長期輸入販売契約を締結したと発表した。価格と数量など詳細部分はまだ明らかにされていない。また、インドのもう1社加里肥料輸入業者 Indian Potash Limited (IPL) も Canpotex との間にすでに長期輸入販売契約を締結している。
インドの加里肥料消費量が年間600～700万トン、ほとんど輸入に依存する。実際の需要量が1200万トンとも言われる。Canpotex は北米の加里肥料生産者の販売連盟として、インドの塩化加里輸入量約25%を供給している。今年4月に Canpotex がインドとの間に2014/2015年度にCFR322ドルの価格で100万トン塩化加里を供給する契約を行った。
- * イラン税関のデータによれば、今年4～11月の尿素輸出量138万トン、昨年同期の245万トンに比べ、44%の激減であった。理由はインドの尿素輸入量の減少と国際的経済制裁である。
- * ベラルーシ BCP の1～9月塩化加里輸出量が730万トンに達し、昨年同期より64%の増加であったが、平均輸出 FOB 価格281ドル/トンで、逆に26%下落した。

大手各社の営業業績

- * アメリカ mosaic 社の第3四半期業績が公表された。売上高23億ドル、その内加里肥料の売上高5.93億ドル、りん酸肥料の売上高17億ドル、純利益2.02億ドル、すべて昨年同期より増えた。
- * アメリカの Intrepid potash 社の第3四半期業績が公表された。売上高1.02億ドル、その内加里肥料の売上高7600万ドル、赤字120万ドル。
- * アメリカの Compass Minerals 社の第3四半期業績が公表された。売上高2.405億ドル、純利益8790万ドル、共に昨年より増えた。加里肥料の販売好調は主な理由である。
- * ノルウェーの Yara 社の第3四半期業績が公表された。肥料販売量が前年度同期より16%増、純利益が17.1億ノルウェークローネ（約2.53億ドル）である。

- * モロッコ OCP 社は 2014 年の DAP 販売量が急増した。1～8 月の DAP 輸出量が昨年同期より 15%増の 112 万トン。輸出先の内訳はブラジル 23.3 万トン、フランス 16.6 万トン、スペイン 11.5 万トン、アメリカ 10.9 万トンなどである。
- * チリ SQM 社は第 3 四半期の業績を公開した。加里肥料、リチウム化合物、ヨウ素化合物の価格下落の影響を受け、1～9 月の純利益が 45%減の 2.184 億ドルしかなかった。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 中国湖北省に特大りん鉱脈が発見された。当該りん鉱脈は沈積型のりん灰岩で、すでに採掘している宜昌りん鉱山の北部に新たに発見された。鉱脈は 2 層からなり、主層が厚さ 3.26～14.90m、平均りん含有量 (P₂O₅) 20.62～28.44%、最高含有量 37.61%、副層が厚さ 1.50～11.15m、平均りん含有量 (P₂O₅) 23.02%、りん鉱石の埋蔵量が 4.95 億トンと推定される。

- * アメリカエネルギー情報局 (EIA) は、アメリカではシェルガスの最大客先がメタノール工場とアンモニア/尿素工場であり、シェルガスを原料とする石油化学工場の新設計画が多数あるというレポートを発表した。

今年中、テキサス州 Pampa 市とルイジアナ州 Geismar 市に 2 か所の新しいメタノール工場が完成する。ほかに数か所の新しい尿素生産ラインも完成する予定である。2015 年、テキサス州 Clear Lake に大型のメタノール工場、アイオワ州 Wever に大型のアンモニア/尿素工場が完成する予定である。

ノースダコタ州には CHS 社が Sporiwood に、Northern Plains Nitrogen 社が Grand Forks にそれぞれ大型アンモニア工場の新設を計画して、2018 年に完成する予定である。ほかに北西太平洋地域にも 2 か所の尿素工場新設の計画もある。

- * モロッコのりん酸塩事業独占企業 OCP 社は、2015 年にりん酸塩事業に計 29.4 億ドルを投資する計画を発表した。事業の拡大により、将来、モロッコのりん酸塩製品の国際シェアを 40%に上げることを目標とする。

2013 年のデータでは、モロッコのりん鉱石採掘量 2600 万トン、りん酸生産量 440 万トン、りん酸肥料 470 万トンであった。2011 年 10 月以降、国際市場におけるりん酸肥料とりん酸塩製品の価格下落が続いている。前年度に比べ、2013 年 OCP 社の売上高が 21%減、今年も 7%減の見通しである。

- * EU 第 2 位の窒素肥料メーカー、チェコの Agrofert Holdinga.s グループはスロバキア子会社スロバキア化学工業の Duslo sala 工場に新たなアンモニア合成生産ラインを建

設すると発表した。投資額 3.75 億ドル、スロバキア政府も 5600 万ドルの資金を提供する。2017 年完成する予定である。

その他

- * 11 月 5 日、カナダの大手化学肥料メーカー Agrium は従業員 500 人を削減して、主力事業以外の非中核事業を売却するリストラ計画を発表した。また、管理経費と運営経費を削減して、競争力を強化すると表明する。
- * 11 月 7～9 日、2014 年中国りん酸肥料会議（CPCF）が浙江省寧波市で開催された。この会議に 2015 年化学肥料輸出関税に関するうわさが流された。2015 年の化学肥料輸出関税は需要期と非需要期の区分を撤廃して、年間 1 本化にする。また、輸出関税も引き下げ、りん安が 100 人民元／トン、尿素が 80 人民元／トン、化成肥料が 5%、その他の肥料が 8%の税率とする。一方、増値税の徴収再開は税関管轄範疇を超えたため、この会議には提起されなかった。
- * アメリカの CF Industries 社の窒素肥料工場はボイラーに故障が発生し、全面操業停止となった。点検修理に約 6 週間がかかる見通しである。当該工場はアンモニア 48 万トン／年、尿素と硝安 82 万トン／年、尿素硝安液（UAN）2.5 万トン／年の生産能力がある。今回は 4 月のボイラー故障に次ぐ 2 回目で、窒素肥料の生産に支障が出て、業績に大きく影響する。
- * 地下鉱山の鹹水が逆流した影響で、ロシアの Uralkali 社が所有する Solikamsk-2 加里鉱山の生産が停止した。再開時期が不明。
Solikamsk-2 加里鉱山は 1975 年から採掘が開始し、2006 年と 2011 年に 2 度にわたって生産能力の増強を行った。現在の採掘能力が 270 万トン加里鉱石、その生産能力が Uralkali 社の加里鉱石生産能力の 23%を占める。生産停止により今年の塩化加里が 30 万トン減少するなど Uralkali 社の塩化加里生産に大きな影響を及ぼす。
- * 10 月からイスラエルの労働組合連合会は政府の国有企業民営化計画を反対するため、断続にストライキを行っている。ハイファ港に 6 日と 28 日の 2 回ストライキにより塩化加里の輸出が若干遅れたようである。もし、ストライキが激化すれば、イスラエルの加里肥料生産と輸出に支障が出る恐れがある。
- * インド国営鉱業（NMDC）とインド国営肥料（NFL）をはじめ、Rashtriya 社、Krishak Bharati Cooperative 社、FACT 社の 5 社は共同でファンドを組み、ロシア Acron 社からその子会社 Verkhnekamsk Potash 社（VPC）が開発中の加里鉱山と精製工場プ

プロジェクトの 30% 権益を買収する。ファンドの総資金 20 億ドル、NMDC が 50%、その他の 4 社は合計 50% 出資する。

VPC 社が 2012 年から Talitsky 加里鉱山と付属の塩化加里精製工場を開発し、2021 年完成する予定である。Talitsky 加里鉱山の加里鉱石埋蔵量が 203 億トンと推測され、完成後、塩化加里生産量が 200 万トン／年と計画されている。

インドは国内需要の加里肥料がほとんど輸入に依存して、主な輸入元がロシアとベラルーシである。2013～2014 年度にインドが 300 万トン超の塩化加里を輸入し、平均 CFR 価格 390 ドル／トンであった。2014 年 4 月から 10 月の 7 ヶ月にすでに 270 万トン塩化加里を輸入し、平均 CFR 価格 330 ドル／トンである。